

オンライン医療の推進に向けて

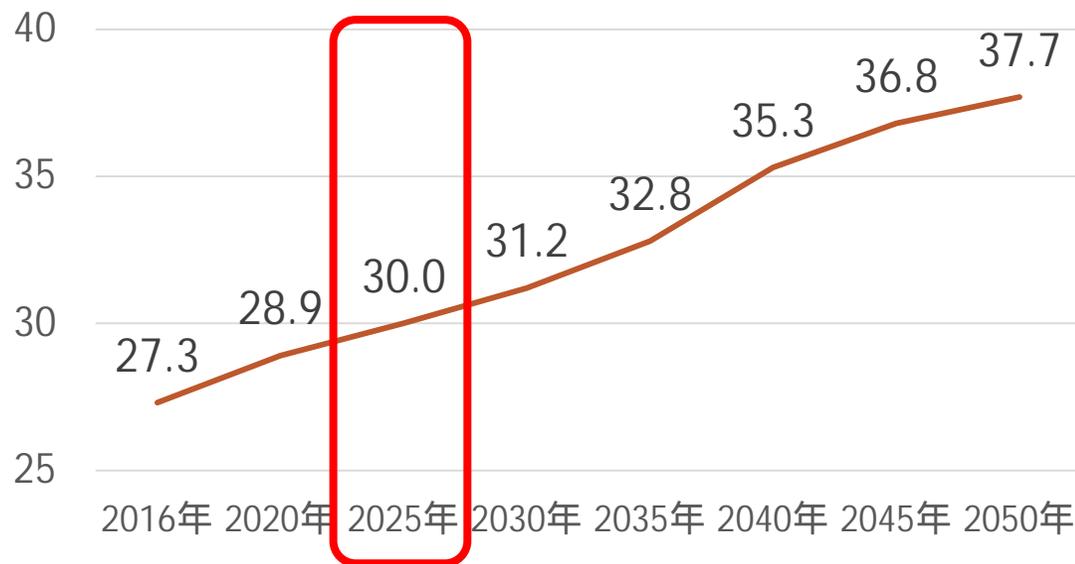
～ Society5.0のもとで拓ける医療の可能性～

2018年3月27日
医療・介護WG座長 林 いづみ

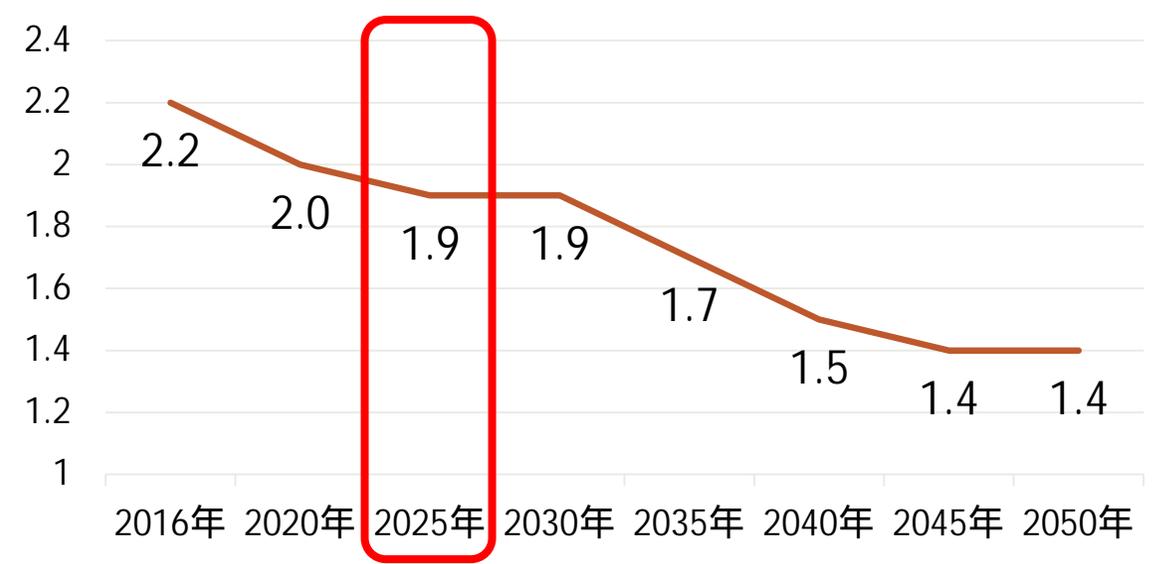
高齢化の進展と医療資源の減少

2025年には65歳以上の割合が30%に達し、2人未満の現役世代(15～64歳)で1人の高齢者(65歳以上)を支える時代へ

65歳以上の高齢者の割合(%)



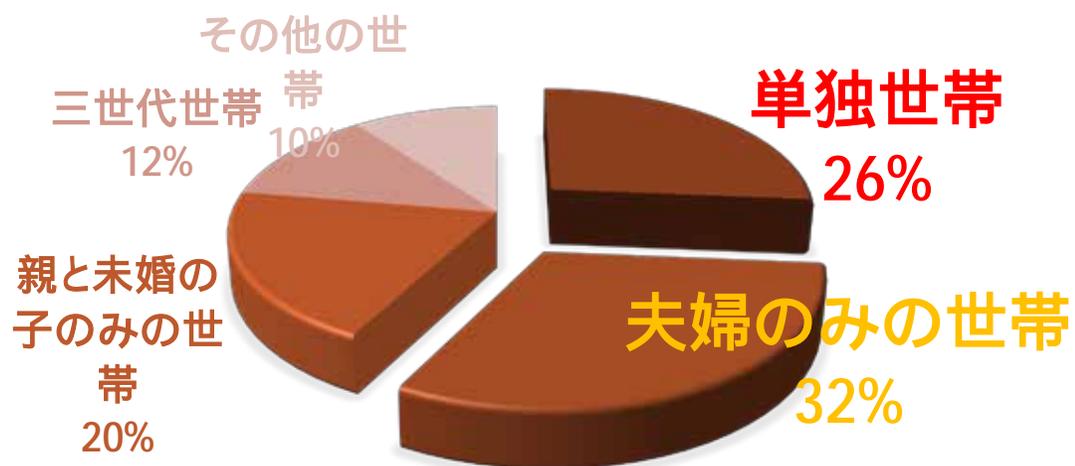
65歳以上を15～64歳で支える人数



高齢化の進展と医療資源の減少

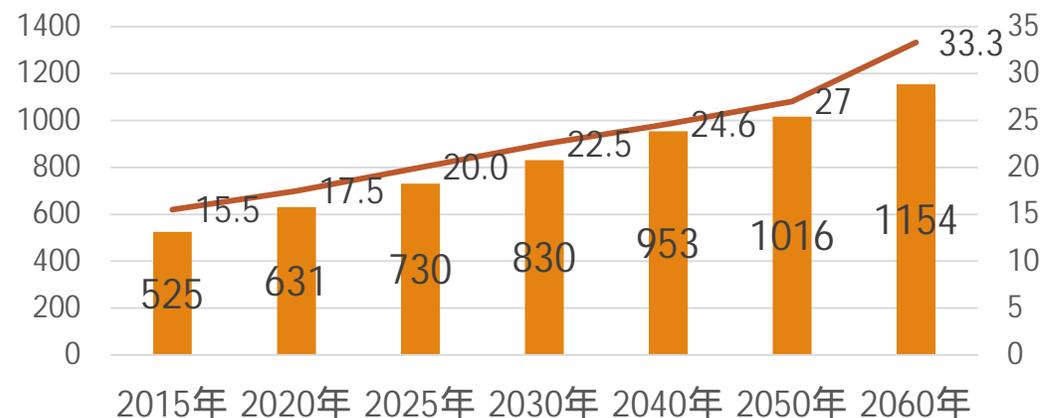
- ・65歳以上の高齢者のいる世帯の過半は、**単独または夫婦のみ**
- ・2025年には65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症患者になるとの推計もあり

65歳以上の者のいる世帯の構造別割合(2015年)



65歳以上の認知症高齢者数の推計

(各年齢層の認知症有病率が2012年以降も糖尿病有病率の増加により上昇すると仮定した場合)



■ 65歳以上の認知症高齢者数(万人) — 認知症有病率(%)

高齢化の進展と医療資源の減少

- ・診療所に従事する医師の平均年齢は59.6歳(2016年末)
- ・60歳以上では男女とも「自宅で介護してほしい」人が最も多い

診療所に従事する医師の平均年齢の推移



出所:「医師・歯科医師・薬剤師調査の概況」
(2016)をもとに事務局にて作成

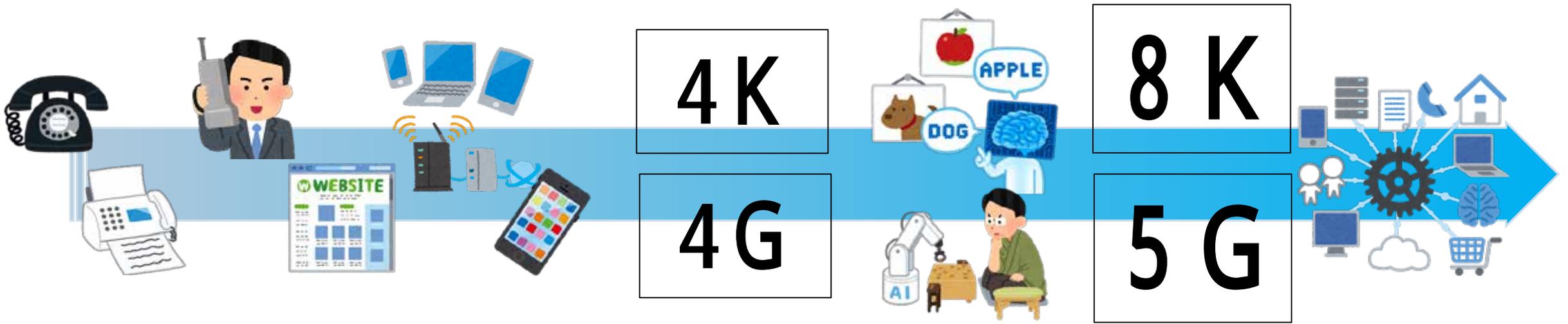
介護を受けたい場所

	自宅で介護してほしい	子どもの家で介護してほしい	親族の家で介護してほしい	介護老人福祉施設に入所したい	介護老人保健施設を利用したい	病院などの医療機関に入院したい	民間有料老人ホーム等を利用したい	その他	わからない
総数	35.6	2.5	0.6	18.7	11.3	20.2	2.7	0.7	7.7
男性	42.2	1.3	0.4	18.3	11.3	16.7	2.3	1	6.6
女性	30.2	3.6	0.8	19.1	11.2	23.1	3	0.5	8.6

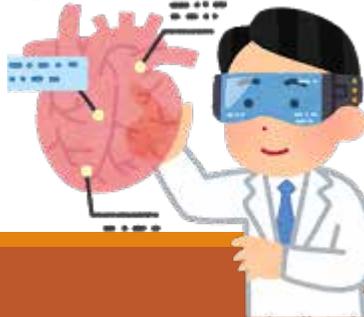
出所:内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」(2012年)

私達の住む地域で在宅医療を今後も受けられる？

技術の進歩 「Society 5.0」へ



あらたな医療サービスの可能性



目指すべき姿

「一気通貫」で完結できる在宅医療



オンライン医療

オンライン診療



受付

診察

処方箋
発行

遠隔服薬指導



処方箋
確認

調剤

服薬
指導



薬配送



ケース 外来 + 院外処方の場合



ケース 在宅医療 + 院外処方 (薬剤師訪問サービスの利用なし)



ケース オンライン診療 + 院外処方 (薬剤師訪問サービスの利用なし)



「一気通貫」で完結できる在宅医療に関する生の声

働く人の円卓会議(オンライン会議 2018年3月9日~16日実施)

真に国民のニーズに応えるため、オンライン診療のガイドラインなどの政策に利用者の視点を反映する必要

テーマ

オンライン医療、一気通貫の実現に期待しますか？

投票結果



参加者への質問・問題提起

オンラインでの在宅医療を利用したい/したくない理由、在宅医療におけるオンラインでの服薬指導の是非など

「一気通貫」で完結できる在宅医療に関する生の声 (働く人の円卓会議より)

オンライン医療に期待する声

YES 親の介護をしています (nhatsue・千葉県・53)

父が他界し、昨年からは実家で一人暮らしの母の介護をしています。母は脳梗塞で右半身が不自由な上に目も悪くしほとんどなにもできません。平日は仕事をしているので介護サービスに頼っての生活です。私が必ず担わなくてはならないのは病院通いと薬局通いです。待ち時間もあって、半日仕事です。なんとかならないかなあといつも思っています。オンラインでの、とはいっても、母のように目が不自由だったり手足が動かないとそれも難しいかもしれませんが.....。

YES 待ち時間の軽減 (Jerryb・東京都・51)

私の近所では、医師の引退などで小児科の閉院が相次いでいます。残ったクリニックに患者が集中して、予約を入れても院内の待ち時間が長く、大人も子どもも疲れ果ててしまいます。たとえば、オンラインで問診してインフルエンザが疑われたら診断キットを誰かが持ってきてくれて、結果を画像で送って陽性だったらかかりつけの薬局に行けば薬が用意されている、というようになったらよいのと思います。

YES 働き盛りの年代にも有効 (mr-mama・北海道・42)

サラリーマンにとっては病院への移動や待ち時間の確保が難しく、受診できずに結果的に悪化させてしまうこともままあると思います。オンラインで受診できれば軽いうちに治療ができるのではないのでしょうか。またガン検診や人間ドックへも応用できると、時間制約や意識におけるハードルが下がってきて受診率も向上し、健康寿命が伸びていくように思います。

患者・家族等の負荷軽減

感染症予防

重症化予防

「一気通貫」で完結できる在宅医療に関する生の声 (働く人の円卓会議より)

YES インフォームドコンセントに活用 (みもぎ・神奈川県・49)

14日掲載JKstyleさん投稿のご友人に近い状態で両親の入院、通院のケアをしている者です。自分の仕事と子育てがある中、毎月遠方の両親のケアに実家へ帰ります。両親の病状や治療法の選択を主治医と相談し兄弟に報告します。副作用のリスクや障害の恐れなど情報を示されるため、スカイプによるインフォームドコンセントや話し合った内容のデータ通信があれば、兄弟が一度に情報共有でき、患者本人も家族に見守られて心強いと思います。そのようなオンライン診療に期待します。

オンライン医療への不安・懸念

NO 医師として責任が持てません。(yu-ho・北海道・43)

内科医です。容態が変わりやすく重症化しやすい高齢者を直接診ないで診療するなんて、医師として私はとても責任が持てません。診察とは、ただ話を聞くことだけではありません。歩き方や顔色、ちょっとしたしぐさ、触った時の皮膚の乾燥やむくみなど、全てが医学的判断の対象です。また私の外来の通院困難なレベルの高齢者のうち、オンライン診療用の機器を使いこなせる理解力を持つ方は少ないです。オンライン診療が役に立つ例外は、仕事が休めないサラリーマンの生活習慣病くらいでしょうか。

NO 時期尚早ではないでしょうか (blueberry53・大阪府・61)

オンラインシステムの活用を否定するわけではありませんが、触診なしで診断をすることやコミュニケーションが間接的になることなど医療行為の質への不安があります。また、面談での受診が高額医療になるようであれば公平でない気もします。将来的に、健康状態や生活の変化などをオンラインでモニタリングすることはあり得ると思いますが、医療行為をすべてオンラインでというのはさらに先の課題と考えます。また、自動運転が進むことで高齢者の移動方法なども変わると思います。

家族間の情報共有の効率化

医学的判断にかかる懸念

医療行為にかかる不安

「一気通貫」で完結できる在宅医療に関する生の声

総括

三つの視点が重要

利用者目線に立った課題の把握

状況に応じた

オンラインと対面の組み合わせ方

医療データの相互連結



「一気通貫」で完結できる在宅医療の 実現により期待される効果

- ・効率的な医療の提供
- ・医療資源の偏在・不足への対応
- ・医療関係者の働き方改革



地域事情に即した地域包括ケアシステムの深化・推進

規制・制度上の課題

オンライン医療を実現するには規制の在り方の見直しが必要

オンライン診療 + 服薬指導



オンライン医療



規制・制度上の課題

オンライン医療を実現するには規制等の見直しや明確化が必要か

オンライン診療 + 服薬指導



電子処方せんが普及していない



患者に対面で服薬指導をする必要がある

公開ディスカッションのポイント

第1部

IT等を活用した医療の現状及び可能性

第2部

普及に向けた規制上の課題や阻害要因

社会的課題の解決へ